

ママのビタミン



小児の誤食に気を付けよう!

日本中毒情報センターの2024年受信報告をみました。全体の65%が5歳以下の小児で約1万5千件の受信件数でした。その原因になった物は、**1位 化粧品、2位 たばこ関連品、3位 洗剤**、そして、処方箋による医薬品は約3500件、一般用医薬品は約1500件にも上ります。

ご存じの通り、生後5ヵ月以降とくに6ヵ月～2歳くらいは色々な物を口に入れ、味やにおい、かたさを確認する探索行動が現れます。しかし、これは正常な発達過程のためお子さんに注意してもなかなか止まりません。また、2歳以降になると大人の行動をまねしようとする模倣行動が増えてきますが、これも重要な発達過程での行動です。なかなか止められません。こうなると、あと誤食を防ぐためにできることは誤食しそうな物を子どもの目に付くところに置かない、見せない、すぐにしてしまうことになってきます。

例えば医薬品、怖いことを言うようですが、たった1錠でも子どもが飲んでしまうと命にかかわる医薬品があります。ですので予防策をのべます。



◎子どもの見てる前で薬を飲まない!

子どもには美味しそうなお菓子を食べている様に見えています。

◎薬を飲む準備をしているときは、他ごとをしない!

うっかり薬を出したままにして離れると、子どもはスキをついて飲んでしまいます。

◎子どもの手に届くところ、台をもってきて届くところには薬を置かない!

子どもは大人をよく見えています。しまった所も見ていてスキをついて開けます。

◎帰省先などでも、予防策を伝えて!

薬を飲んでる人は多いです。自宅と同じように予防してもらいましょう。



万が一、医薬品を飲んでしまったときは、まず息をきちんとしているか、声をかけたら返事をするか確認し、いつもと様子が違うときは、救急車を呼びましょう。その時、何をどれだけ飲んだかわかる空き箱や薬の説明文、現場の写真を持って行きましょう。

春は、大人も異動や引越、生活のリズムが変わる出来事が増え、気もそぞろになりやすい時期です。これらの予防策は、医薬品以外にも応用できるので、今一度、意識していただけたらと思います。口に入りそうな大きさの物、キラキラしていて綺麗な物、大人や大きい子どもたちが身近に持っている物、たくさんありますが、できることから予防していきましょう。

薬のギモン・質問は、お近くの薬局 もしくは、ぎふ薬事情報センターまで ☎058-247-5122

協力/ 岐阜県薬剤師会 〒500-8146 岐阜市九重町4-5 <http://www.gifuyaku.or.jp> 岐阜県薬剤師会 検索